



都農町地域資源マップ 3班

御厨憲希/福満直人/齋藤彩実/柴田ゆい/平島葵

1

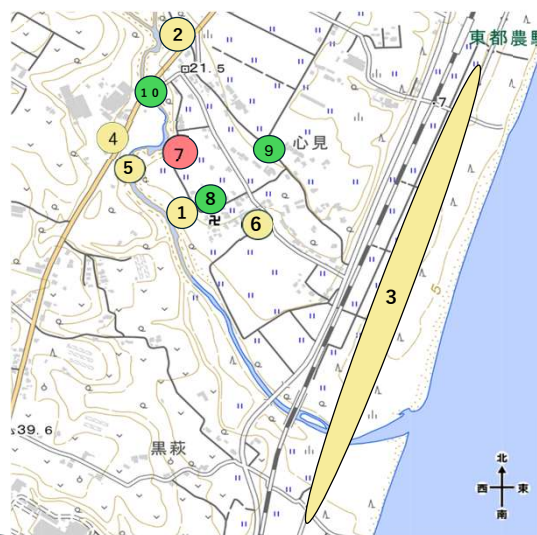


神社の鳥居の奥は草木が生い茂り、大きな蜘蛛の巣が張られていた。あまり手入れはされていないようだった。神社の隣には大きな広場があった。広場の芝生はきれいに刈られていて、広場のトイレも掃除がされていた。神社の正面の畑の方の話によると、町で管理の方が決められているらしい。昔はこの広場で地域の方々が集まってレクリエーションや運動会を行っていたらしいが、コロナ禍によってその集まりもなくなってしまったようだ。（平島）

2



東都農小学校。ビニールハウスの多い場所から少し登った通りにある。小学校の周りには民家が比較的多くあり、在校生の生徒も多そう。敷地の中にバス停の標識もあり、バスと関係があるのかもしれないが、その情報は確認できなかった。（御厨）



- 危険なスポット
- 自然スポット
- 建物

3



長い線路があり、初めは高速道路かと思っていたが、調べてみると、JR日豊線・都農一美々津間の線路に沿うように全長約7キロメートルの長さのソーラーパネルであった。元々はリニアモーターカーの実験線として用いられていた。今は役目を終え、鉄道車両が走ることはないと思われて分かり、少し寂しい気持ちになった。（柴田）

4



都農町には個人経営の飲食店がたくさんあった。自然豊かで落ち着いた雰囲気の中でここで食べられない料理を楽しむことができた。従業員さんたちの人柄もとてもやさしく居心地もよかった。（福満）

5



道路沿いにある店の駐車場にこのコインと書かれた旗が立っていた。このコインとは令和5年10月から始まったキャッシュレス決済であり、経済対策や医療・保険・福祉施策を目的として導入された。地域住民主体の地域活性化の取り組みの一つである。（齋藤）

6



ビニールハウスの近くを歩いていると、大きなタンクがあったので気になって調べてみると、このタンクは農業用ビニールハウスの空調管理であり、内部には重油などの燃料が貯蓄されていると分かった。また、宮崎県などの地域では、ピーマン栽培などで冬のハウス内温度を維持するために、これらのタンクの残量管理が必要不可欠であるということも知った。（柴田）

7



田んぼ横の用水路。この辺りには暗くなった時に明かりになるものが無く、日が沈み始めた時や暗くなった時に歩くと足を踏み外す可能性があり、危険である。また、まとまった雨が降った時は水量が増えると考えられるのも危険な点だ。（御厨）

8



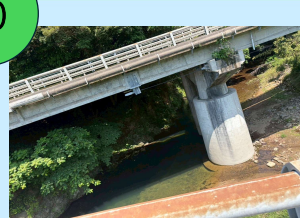
①の神社の目の前の畑を管理している二農家さん。朝の畑仕事にお話を聞かせていただいた。都農町へは移住支援金を利用して引っ越してきたそう。都農町は自然も豊かで、子育て支援が充実しているという点に魅力を感じてと話してくださった。最近では都農町に若い方々も増えてきているそう。（平島）

9



畑ではさといもとしょうがが育てられていた。四年までは農作業とひなから育てて地鶏として出荷する養鶏場の仕事を兼業していたが現在農業に専念しているそう。都農町の現状について若い人が少なく高齢者が増えていることから後継者不足や労働力不足を問題視していた。（齋藤）

10



周辺を探索していると小川を見つけた。都農町はとても自然が豊かな町である。宮崎県内でも畜産や農業が盛んであり、そんな宮崎の第一産業を支える水などの自然はとても澄んできれいだと改めて感じる事ができた。こういった自然を今後も大切にしていきたいと思った。（福満）

私は今回初めて都農を訪れた。実習に来る前までは都農町と聞いても何も知識がなく、何か資源といえるものがあるのだろうかと思っていたが、実習までに受けた講義中の資源の定義などを思い出しながら歩くと、これまでただの自然と思っていたものも資源だと認識できるようになり、少し都農町の魅力に気づくことができた。また、地元の方のお話を聞いたことで都農町が取り組んでいる移住者支援や都農町の農業の現在地を知ることができた。この経験を通して、様々な視点を持ちながら歩くことの大切さを知った。（御厨）

都農町を実際に訪れて街中を散策したり出会った地域の方にお話を聞いたりすることで都農町の魅力に気付いただけでなく、現状と課題についてもより地域目線で考えることができたと感じる。都農町は自然の豊かさや地域の方々の温かさが魅力であり、そのことをもっと様々な人に知っていただき都農町に興味を持ていただきたいと思った。都農町資源マップの作成を通して都農町の魅力が少しでも伝わったら嬉しい。（齋藤）

今回のフィールドワークでは、初めて都農町に行った。実際に現地に足を運び、現地の方々に触れ合うことで都農町の魅力を知ることができた。都農町は自然が豊かで、道端にも誰かが手入れをされていることがわかるきれいな花が植えられていた。都農町に住む方々も温かい方が多く、私たちの問いかけに優しく答えてくださった。途中で立ち寄った飲食店は開店前から駐車場に待っている方がいて、地域の方から愛されているのを感じた。こうした地域のつながりがコロナ禍をきっかけに薄まっていることもインタビューを通して知ることができた。（平島）

いつも通りに歩いている道でも、地域学の視点で見ると、まったく違った発見があるのだと強く感じた。実際に都農を訪れ、一つ一つの景観や、そこで暮らす農家さんたちの生活の様子を観察したり、直接インタビューしたりする中で、普段の生活では気づけないことや見落としていたことが次々と見えてきた。今回の実習では、人にインタビューするという貴重な経験を積むことができ、相手の話を引き出す難しさや、丁寧に耳を傾ける姿勢の大切さを学んだ。また、班のメンバーと協力しながら調査を進める中で、役割分担やコミュニケーションの重要性も実感した。自分一人では気づけない視点を仲間が持っていたり、意見を交わすことで理解が深まったりと、協働することの価値を強く感じた。このフィールドワークを通して、自分の視野をこれまでより広く持つようになったと感じている。地域を見るときの視点が少しずつ増え、これからの学びにも活かせる手応えを得ることができた。（柴田）

今まで都農町にあまり行ったことがなかったので、今回のフィールドワークを通して普段は見えない視点から地域のことを見る事ができたと思う。地域の人にもインタビューをしてみた。農業従事者が多く、野菜から畜産まで都農町は幅広く農業に力を入れていることがわかった。宮崎では地鶏やピーマンが有名だが、都農町などの自然豊かな町が宮崎の有名な特産物を支えていることを、このフィールドワークを通して理解できたことは、自分の地域を理解する一歩に繋がったと思う。まだまだ地域資源創成学部に入って月日も浅く、地域を観る視点も未熟かもしれない。しかし、この学部ならではの講義を通してより多角的な視点から物事を観察できるようにし、将来の宮崎に貢献できる人材になれるよう精進していこうと思える活動だった。（福満）



2026年度宮崎大学地域資源創成学部
1年生必修講義「地域学基礎」履修生作成